

## 理事会会合の総括で使用される修飾語句

国際通貨基金（IMF）の意思決定プロセスにおいて、総括は重要な位置を占める。総括は、理事会の総意を記録する有効な手段であると同時に、重要だが理事会の公式決定に盛り込むことが難しい微妙な意見の相違—それには議長を務めた理事らの意見の相違も含みうる—を考慮するものである。以上のことから、総括は理事会での合意の記録性を高めるものであり、また場合によっては、それ自体が理事会決定となる<sup>1</sup>。例えば、IMFの政策一般に関する会合については、特に、理事会の見解がIMF職員の今後の業務の指針となる場合は、往々にして総括により締め括られることが多く、また第4条協議に関連した理事会会合は総括によって締め括られる。

IMFの設立以来、理事会は公式な票決ではなく、総意（コンセンサス）の追求の重要性を重視してきた。1946年理事会は、理事会議長は、公式な票決に代わる手段として、意思決定の基盤となる「会合の総意」を記す責務を負うとの決定を下した。IMF規則及び規定の規則C-10は、このアプローチを反映しており、通常は、公式な票決に代わり議長が会合の総意を確定すると定めている。「会合の総意」とは、投票が行われた場合に議題を可決するに足る、十分な票を有する理事らが支持している状況と理解することができる。総括にあたり理事会議長は、今後の業務の指針となるよう、理事会での審議内容を十全に正確かつ具体的に、しかし理事の見解の重要だが微妙な相違を捉えるために、広範かつ細密に記すことが求められる。一方、理事の各々の見解は通常総括に盛り込まれることはなく、理事会会合の包括的かつ完全な記録である理事会議事録に記録される。

上記のような総意に基づいた意思決定プロセスの一環として、見解の相違が見られる場合は、議事事項に対する支持の程度を記録するため、修飾語句を使用することが長年の慣行となっている。理事の見解を列挙する際に使う修飾語句は実数に基づいているが、議長は審議を総括するにあたり、理事会での議決権の加重配分を考慮し、投票が行われた場合に（特に特定多数が必要となる決定に際して）議題の可決に必要な多数決のマジョリティに配慮する必要がある<sup>2</sup>。総括で見解の相違を記載する場合は、これら相違と特定の理事を直接結び付けることはない。また、（修飾語句を付けずに）「理事ら（Directors：複数形）」と表現する場合は、必ずしも満場一致の合意、あるいは完全なる総意を示すものではない。上述のように、理事会会合の議事録が、包括的かつ完全な形で全ての見解を反映する、適切な公式手段である。

下記の表は、総括において最も一般的に使用されている修飾語句を示している。

## 理事会の総括で一般的に使用される修飾語句

修飾語句	理事数
少数の (A few)	2-4 名
一部の (Some)	5-6 名
多くの (A number of)	6-9 名
かなり多くの (Many)	10-15 名
大多数の (Most)	15 名以上
理事会の力のあるマイノリティ、あるいは例外的なケースでは、理事会の必要過半数あるいは過半数	必要な議決権の強さを提示—特に特定多数のケースに有用。
理事ら	投票が行なわれた場合、必要な多数決のマジョリティを十全に満たし、かつ全て或いはほとんど全ての理事がその多数派の見解に賛同する場合

<sup>1</sup> 一方、理事会は特別に提案された語句を採用し、その決定を記録することができる。通常、理事会の決定が、IMF の財源の使用、管理あるいは予算上の項目、並びに一部の政策事項に関する場合がこれにあたる。

<sup>2</sup> IMF 内での意思決定に関する詳細な情報については、レオ・バン・ハウトヴァン (Leo Van Houtven) 著の『IMF のガバナンス：意思決定、制度の監督、透明性、説明責任 ([Governance of the IMF: Decision Making, Institutional Oversight, Transparency, and Accountability](#))』(2002 年、IMF、Washington, D.C.)、およびジョセフ・ゴールド (Joseph Gold) 著の『IMF における多数決のマジョリティ：IMF 協定の第 2 次改正の影響、パンフレットシリーズ No. 20 (Voting Majorities in the Fund: Effects of Second Amendment of the Articles, Pamphlet Series No. 20)』(1997 年、IMF、Washington, D.C.) を参照のこと。また、理事会の議長を務める理事らが現在行使している議決権については、<http://www.imf.org/external/np/sec/memdir/eds.htm> を参照のこと。